

ザンビア通信 vol.2

青年海外協力隊 平成 22 年度 3 次隊

ザンビア 理数科教師 金田直己

ザンビア政府は以前より教育政策「Educating Our Future」を掲げ、教育の地方分権化・アクセスの平準化・教育の質の向上に取り組んできました。今年からは「人的能力を強化し高い教育訓練への公平なアクセス拡大」を目標とし取り組み始めています。取り組みの一つとして教員の継続的な職能開発(Continuing Professional Development ; CPD)の促進を目指しています。

私が所属する北西部州は2008年より授業研究プロジェクト対象地区になっておりますがザンビア政府は授業研究を中心とした校内研修を今後全国に普及させようとしています。私自身が配属前に得ていた情報では我がカピジンパンガ小中学校は授業研究に熱心な学校と聞いていました。しかし実際に話を聞いてみると、今までほとんど授業研究などの校内研修は行われていないようです。

6月に入り CPD を始めようと校長先生が重そうな腰を上げ始めました。

初回のミーティングでは本題に入る前に①お祈り②歌③踊りが催されました。①のお祈りは私以外の先生たちはクリスチャンで定例ミーティングでも毎回やっているの理解出来ますが、②&③は突然始まったのでさすがに戸惑いました。これもクリスチャンならではの儀式だったのでしょうか。いきなりこの調子だったので本題に入る前に結構な時間が経過してしまっているのは言うまでもありません。

また、ミーティングは日本の学校なら普通は授業後に行われるのが当然だと思いますが、私の学校(ザンビアの他の学校も同様だと思います)では授業時間中に行われます。実際にこのミーティングで私の授業時間も被害に遭い、潰れてしまいました。ミーティングには全教員が参加しているのでこの時間の間は生徒はやりたい放題です。

この日の議題は「クラスマネージメント」。授業時間の真最中にミーティングやって生徒はやりたい放題で議題は「クラスマネージメント」。クラスマネージメントを議論する以前の問題がすでに発生してしまっています。まず授業優先でミーティングは授業後にやりましょうと提案する所から始めないといけませんでした。結局大した事は議論されず 2 時間を費やしその日は終了しました。その後、他の教科(理科・数学の 2 教科持ちなので)があったので教室に行ったら生徒は 7 人しか居ませんでした。2 時間のミーティングの間にほとんどの生徒は帰ってしまっていました。

翌週にもミーティングが行われましたがその後ミーティングは行われていません。うちの校長先生は気持ちが盛り上がりすぎて下がるようです。典型的なザンビア人の様です。

急に始めようとしてもなかなか手がかからないのは良く分かります。なので、少しずつ維

持してやっていけば良いと思います。まだ始まったばかりなので。

話題は変わりますが、1学期終了後の(現在は2学期)長期休暇中に世界三大瀑布の一つ「ヴィクトリアフォールズ」を訪問してきました。ヴィクトリアフォールズはザンビアとジンバブエの国境に位置しています。滝観光の拠点となるのは首都ルサカからバスで6時間ほど行った所の「リビングストーン」という街です。訪問時期はちょうど雨季の終盤で水量がとても多く、滝の正面に行くと水しぶきが激しすぎてまるで大雨の中をあるいている様な状態で滝自体を確認することが困難でした。(右写真:滝のサイドから撮影。)正面から滝を拝むならば乾季または飛行機やマイクロフライトを利用すると良いでしょう。



今学期にはメイズ(トウモロコシ)の収穫イベントがありました。日本の学校のイモ掘りと同じ感覚です。メイズはザンビア人の主食であります「シマ」の原材料です。乾燥したメイズを挽いて粉にし、その粉を家庭で調理してシマを作ります。私の学校では収穫したメイズを売り収入の一部にしています。貴重な財源のようです。

収穫するのは主として生徒ですが私も参加しました。アフリカ人は重い物を運ぶ際には頭の上に載せて運びます。それをマネしてみました。が収穫したメイズは思いのほか重かったです。アフリカ人は強靱な首をしています。



(写真)

上：収穫の様子

中：メイズを運ぶ金田

下：休憩中

Vol.3 に続く。